

## 北海道花き振興協議会（北海道）

協議会構成団体：北海道花き生産連合会、北海道鉢花生産組合、北海道ばら研究会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道芝生生産者協同組合連合会、(株)札幌花き地方卸売市場、日本花き卸売市場協会北海道支所、札幌花き園芸(株)、はまなす花き(株)、北海道植物(株)、(一社)全国花卸協会北海道・東北ブロック札幌支部、北海道生花商協同組合、北海道フラワーガーデン協会、北海道園芸商同友会、(一社)日本ハンギングバスケット協会北海道支部、北海道いけ花連盟、北海道教育庁、北海道

### 対象品目

切り花：スターチス、カーネーション、ゆり、  
デルフィニウム、ひまわり、アルストロメリア、  
ばら、トルコギキョウ  
鉢もの：シクラメン、ポインセチア  
花壇用苗もの：ニューギニアインパチェンス、ゼラニウム、  
カリブラコア、バーベナ、コリウス



### < 取組内容 >

#### 1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

・鉢花生産に係るかん水及び防除作業の省力化に向け、「液肥混入機」の導入による省力化及び生育に与える影響を調査した。

- ・シクラメンでは、液肥混入機の導入により、年間のかん水作業△367時間/10a、防除作業△31時間/10aと栽培期間を通じた作業の省力化が図られ、年間生産費が△352,651円/10aとなることが確認できた。
- ・また、液肥の濃度が均一に保たれたことで生育のばらつき及び奇形花が少なくなる傾向を確認。(写真1)



写真1：日持ちの違い  
(定植153日後)  
左：液肥混入機導入区  
右：慣行区  
〔導入区と比較して〕  
・葉の大きさ不揃い  
・奇形花あり

#### 2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

・切り花の輸送コスト低減に向け、農産物との混載輸送を想定した、切り花の鮮度保持（電界の発生による作物体の水分蒸発の抑制及び水分保持効果の向上）装置を設置した冷蔵庫での保管及びエチレン分解シートを使用した輸送試験（空輸）を実施した。

- ・アルストロメリアでは、鮮度保持装置の使用により輸送期間中の水分蒸散量（水分ロス）が慣行区の3.3%と比較し2.9%と少なく、水分保持による①水分蒸散が抑制されることで蒸れにくい環境の創出、②静菌性（細菌の増殖抑制）のある体質への変化で、より長期に鮮度が保持ができた。(写真2)
- ・さらに、エチレン分解シート併用で、二酸化炭素と水に分解、シート未利用区に比べて水分ロスが少ない。

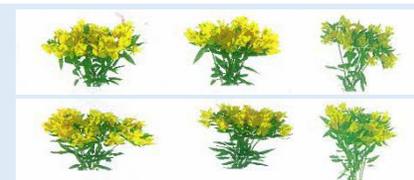


写真2：水分ロスの比較  
〔試験区〕上：慣行区(無処理)、下：鮮度保持装置+エチレン分解シート区  
〔比較日〕左：9月19日(混載なし)、中：9月23日(混載3日目)、  
右：9月26日(混載6日目) ※混載開始9月21日

#### 3 花きの消費拡大・利用定着の取組

・日常的に花きを楽しむ人を増やし、道産花きの消費拡大及び利用の定着に繋げるため、生産者と実需者が連携した花き展示、アレンジメント体験等を実施した。  
・道産花きの魅力を一般消費者に伝えるため、小学校や幼稚園、福祉施設、高齢者施設などで花育や園芸体験による花きの活用促進の取組を実施した。

- ・道内各所で花き展示PRイベント・アレンジメント体験を実施し、延べ19万人ほどが来場・参加した。来場者へのアンケートでは「今後、花を購入したい」と回答した人が回答者全体の94%を占め、今後の消費拡大に向けた足掛かりとなった。
- ・合計1,288名が花育・園芸体験に参加し、参加した児童の保護者等へのアンケートでは、回答者の77%の人が今後も花きとのふれあいを希望しており意識醸成ができた。



親子での  
アレンジメント体験



北海道産花きの  
展示による魅力発信

### < 今後の取組予定 >

- ・輸送コスト低減に向け、輸送別（トラック、鉄道コンテナ、船便）の日持ち試験と鮮度保持装置を活用した上での花きと野菜との混載の可否について実証予定。
- ・生産コスト削減や出荷本数の増加等に向け、熱交換型空調システムによるハウス内温度の均等化及び暖房費削減効果の実証、細霧冷房による生産性向上の実証、オーガニックフラワー栽培での電照における害虫忌避効果の検証、露地栽培における倒伏防止の実証などを実施予定。
- ・各種展示やアレンジメント制作体験、花育等を実施し、需要拡大と道産花きの認知度向上を図る。